

2026 年度入試 「一般選抜」

出題意図 「生物」

- ・ 試験科目については、入学試験要項等を参照してください。
- ・ 出題意図に関する質問や問合せには一切回答いたしません。
- ・ 志願者がいない科目については、公開しておりません。

出題意図

入試制度名称	全学部統一入試Ⅰ期
試験日	2月2日

大門	内容
概要	本学の生物基礎の入学試験問題は、高等学校学習指導要領「生物基礎」に基づき、生命現象に関する基礎的な知識の理解と、それらを用いて論理的に考察する力を評価することを目的として出題している。 具体的には、生物に関する基本的な用語や概念を正確に理解しているかを確認するとともに、図表や文章から必要な情報を読み取り、現象の仕組みや因果関係を筋道立てて説明できるかを問うことで、入学後の学修に必要な基礎的な学力、読解力及び思考力を総合的に評価する。 これらは、本学のアドミッション・ポリシーに示す「高等学校卒業程度の知識を基盤として、物事を多角的・論理的に分析し、主体的に学修に取り組むことのできる学生」を選抜する観点に沿うものである。
I	生物の共通の特徴と、生命活動を支える基本概念の理解について、出題した。生物の特徴や生命活動について、基本的な用語とその意味を正しく理解しているかを評価する。また細胞小器官について理解しているか確認する。特に、細胞の構造と機能を単なる知識として問うのではなく、図や具体的過程と結びつけて理解し、論理的に考えることを重視している。
II	生物基礎「遺伝情報と発現」をテーマとして、DNAとRNAの構造の違い、4種類の塩基の種類と対応、転写と翻訳によるタンパク質合成の過程について出題した。DNAの塩基配列がどのようにRNAを経てアミノ酸配列へ翻訳され、タンパク質が合成されるかを論理的に理解しているかという知識を評価する。図を通じて遺伝情報の流れ（セントラルドグマ）を正しく把握し、塩基の対応関係や過程を理解できるか思考力を確認する。特に、塩基の対応関係や転写・翻訳の流れを単なる知識として問うのではなく、図や具体的過程と結びつけて理解し、論理的に考えることを重視している。

III	高等学校「生物基礎」の生物の体内環境の維持に関する内容を対象とし、恒常性の概念、体液の構成と役割、血液の成分およびその働きについて、血液が物質運搬や生体防御などを通して体内環境の維持に果たす役割を中心に出题した。本問題では、恒常性や血液に関する基礎的な知識・技能を正確に理解しているかに加え、文章をもとに血液の働きと体内環境の維持との関係を整理する思考力、与えられた情報を比較して適切に判断する判断力、内容を簡潔かつ的確に説明する表現力を総合的に評価した。特に、血液の成分や機能を恒常性という生体全体の仕組みの中で関連付けて理解する力や、人体の機能を論理的に捉える力を重視した。これは、基礎的な人体理解につながる能力である。
IV	高等学校「生物基礎」の生物の体内環境の維持に関する内容を対象とし、体内環境の恒常性（ホメオスタシス）の基本概念、自律神経系の働き、ホルモンによる調節機構、ならびに神経系と内分泌系の協調的な作用について出题した。 本問題では、体内環境の調節に関する基礎的な知識を正確に理解しているかに加え、提示された状況や資料をもとに生体の調節機構を整理・考察する思考力、神経系とホルモン系の働きを比較して適切に判断する判断力、生体反応の仕組みを簡潔に説明する表現力を総合的に評価した。特に、自律神経とホルモンによる調節を関連付けて理解し、体内環境の恒常性という視点から論理的に捉える力を重視した。

出題意図

入試制度名称	全学部統一入試Ⅰ期
試験日	2月3日

大門	内容
概要	本学の生物基礎の入学試験問題は、高等学校学習指導要領「生物基礎」に基づき、生命現象に関する基礎的な知識の理解と、それらを用いて論理的に考察する力を評価することを目的として出題している。 具体的には、生物に関する基本的な用語や概念を正確に理解しているかを確認するとともに、図表や文章から必要な情報を読み取り、現象の仕組みや因果関係を筋道立てて説明できるかを問うことで、入学後の学修に必要な基礎的な学力、読解力及び思考力を総合的に評価する。 これらは、本学のアドミッション・ポリシーに示す「高等学校卒業程度の知識を基盤として、物事を多角的・論理的に分析し、主体的に学修に取り組むことのできる学生」を選抜する観点に沿うものである。
Ⅰ	細胞の構造と機能を通して、生物の共通性と多様性理解をテーマとして、細胞小器官や光合成や呼吸を、エネルギーの流れとして捉えられているかを問う問題を出題した。原核生物・真核生物の違いを、構造と機能の両面から理解しているかを評価した。特に、生物の共通性と多様性を、整理して理解できているかを重視した。
Ⅱ	生物基礎「生体の構成成分」と「遺伝情報と発現」をテーマとして、DNAの構成成分（糖・リン酸・塩基）と塩基の相補性（シャルガフの規則）、およびヒトの体を構成する主要成分（水・タンパク質など）について出題した。 生体を構成する物質の基本的理解と、DNAの化学的構造に関する知識を評価する。特にDNAが糖・リン酸・塩基から成ること、塩基の相補性（AとT、GとC）を確認する。また、生体成分としての水やタンパク質の割合と機能を理解し、生命活動を支える分子の役割に関する知識を測定する。特に、DNAの構造や生体成分の理解を、「構造と機能の関連性」の理解を重視し、生命現象を分子レベルで論理的に捉える力を評価する。

III	高等学校「生物基礎」の生物の体内環境の維持に関する内容を対象とし、免疫の基本的な仕組み、自然免疫と獲得免疫の違い、獲得免疫の特徴について出題した。本問題では、免疫に関する基礎的な知識・技能を正確に理解しているかに加え、図表や文章をもとに免疫反応の特徴を整理する思考力、複数の情報を比較して適切に判断する判断力、内容を簡潔に説明する表現力を総合的に評価した。特に、自然免疫と獲得免疫を関連付けて理解する力や、免疫の仕組みを論理的に捉える力を重視した。
IV	高等学校「生物基礎」の生物の体内環境の維持に関する内容を対象とし、恒常性の概念、内分泌系による調節の仕組み、血液中のホルモン濃度の変化と身体の応答について出題した。本問題では、体内環境やホルモン調節に関する基礎的な知識・技能を正確に理解しているかに加え、図表やデータをもとに生体内の調節機構を考察する思考力、複数の情報を比較して適切に判断する判断力、調節の仕組みを簡潔に説明する表現力を総合的に評価した。特に、血液中のホルモン濃度の変化と恒常性維持との関係を関連付けて理解する力や、生体調節を論理的に捉える力を重視した。

出題意図

入試制度名称	全学部統一入試Ⅰ期
試験日	2月5日

大門	内容
概要	本学の生物基礎の入学試験問題は、高等学校学習指導要領「生物基礎」に基づき、生命現象に関する基礎的な知識の理解と、それらを用いて論理的に考察する力を評価することを目的として出題している。 具体的には、生物に関する基本的な用語や概念を正確に理解しているかを確認するとともに、図表や文章から必要な情報を読み取り、現象の仕組みや因果関係を筋道立てて説明できるかを問うことで、入学後の学修に必要な基礎的な学力、読解力及び思考力を総合的に評価する。 これらは、本学のアドミSSION・ポリシーに示す「高等学校卒業程度の知識を基盤として、物事を多角的・論理的に分析し、主体的に学修に取り組むことのできる学生」を選抜する観点に沿うものである。
I	同化と異化の定義、酵素の基本的性質、およびエネルギー通貨としての ATP の構造と機能について出題した。 代謝における「物質の変化（単純⇔複雑）」と、それに伴う「エネルギーの出入り（吸収⇔放出）」の法則性を正しく理解できているかを確認した。特に、生命現象を化学的な視点で捉えるため、エネルギー通貨である「ATP」の構成要素や、「酵素」の反応特性に関する正確な知識の定着を重視した。
II	生物基礎の「遺伝情報の発現」および「細胞の増殖」をテーマとし、DNA と RNA の構造・機能、塩基と糖の違い、局在、鎖構造、転写・翻訳の流れ、および細胞周期（G1・S・G2・M）における DNA 複製や染色体変化について出題した。 デオキシリボースとリボース、チミンとウラシルなどの対応に関する知識に加え、DNA/RNA の鎖構造や転写から翻訳への情報の流れ、さらに細胞周期の語彙を適切に用いて DNA 量の倍化や染色体の段階的变化を論理的に関連づけて解答できるかを確認した。特に、個別の知識を生命現象の過程の中で結び付けて判断する「統合力」を重視した。

III	高等学校「生物基礎」の生物の体内環境の維持に関する内容を対象とし、体内環境の恒常性（ホメオスタシス）の基本概念、自律神経系の働き、ホルモンによる調節機構、ならびに神経系と内分泌系の協調的な作用について出題した。本問題では、体内環境の調節に関する基礎的な知識を正確に理解しているかに加え、提示された状況や資料をもとに生体の調節機構を整理・考察する思考力、神経系とホルモン系の働きを比較して適切に判断する判断力、生体反応の仕組みを簡潔に説明する表現力を総合的に評価した。特に、自律神経とホルモンによる調節を関連付けて理解し、体内環境の恒常性という視点から論理的に捉える力を重視した。これは、人体理解や将来の専門的学修の基盤となる能力である。
IV	高等学校「生物基礎」の生物の体内環境の維持に関する内容を対象とし、免疫の基本的な仕組み、自然免疫と獲得免疫の違い、獲得免疫の特徴について出題した。本問題では、免疫に関する基礎的な知識・技能を正確に理解しているかに加え、図表や文章をもとに免疫反応の特徴を整理する思考力、複数の情報を比較して適切に判断する判断力、内容を簡潔に説明する表現力を総合的に評価した。特に、自然免疫と獲得免疫を関連付けて理解する力や、免疫の仕組みを論理的に捉える力を重視した。これは、基礎的な人体理解につながる能力である。

出題意図

入試制度名称	全学部統一入試Ⅱ期
試験日	2月19日

大門	内容
概要	本学の生物基礎の入学試験問題は、高等学校学習指導要領「生物基礎」に基づき、生命現象に関する基礎的な知識の理解と、それらを用いて論理的に考察する力を評価することを目的として出題している。 具体的には、生物に関する基本的な用語や概念を正確に理解しているかを確認するとともに、図表や文章から必要な情報を読み取り、現象の仕組みや因果関係を筋道立てて説明できるかを問うことで、入学後の学修に必要な基礎的な学力、読解力及び思考力を総合的に評価する。 これらは、本学のアドミSSION・ポリシーに示す「高等学校卒業程度の知識を基盤として、物事を多角的・論理的に分析し、主体的に学修に取り組むことのできる学生」を選抜する観点に沿うものである。
I	多細胞生物の体の構成、マイクロメーターを用いた測定法、細胞周期（体細胞分裂）について出題した。本問題は「細胞→組織→器官」といった生物の構成段階や、細胞分裂の進行順序など、生命現象の順序・構造を正しく理解しているかを評価する。加えて、マイクロメーターの操作手順や目盛りの読み取り方を評価した。特に、単なる用語の暗記だけでなく、顕微鏡計測における計算・処理能力や、現在の遺伝学が確立されるまでの「科学史的な経緯」への正確な理解を重視した。
II	生物基礎「遺伝子とそのはたらき」をテーマにして、細胞周期と分裂期の順序、DNA研究史の主要業績と人物対応、体細胞分裂の語彙（母細胞・娘細胞・終期など）について出題した。本問題は、分裂期の順序の知識を評価する。また、DNA研究史における、業績と人物の関連性に関する知識を確認する。さらに体細胞分裂の設問では、用語の定義（母細胞・娘細胞・分裂期・終期）を正確に適用し、文章の文脈に応じて最適語を選択できる基礎概念の定着度を測る。特に、個別知識を時間軸と因果で統合し、根拠をもって選択する

	力、歴史項目の取り違えを避ける精度、用語の厳密さを抽出する能力を重視した。
III	高等学校「生物基礎」の生物の体内環境の維持に関する内容を対象とし、免疫の基本的な仕組み、自然免疫と獲得免疫の違い、獲得免疫の特徴について出題した。本問題では、免疫に関する基礎的な知識・技能を正確に理解しているかに加え、文章をもとに免疫反応の特徴を整理する思考力、複数の情報を比較して適切に判断する判断力、内容を簡潔に説明する表現力を総合的に評価した。特に、自然免疫と獲得免疫を関連付けて理解する力や、免疫の仕組みを論理的に捉える力を重視した。